

前置詞の2つの習得法

「この列車はその駅に止まる」This train stops at the station. という文で、「に」にatを用いることをどのように習得するか。その方法は大きく2つに分かれます。

〈方法1〉「駅で」の「で」はatが原則だとまず覚え、“アット・ザ・ステーション”(at the station)と、ひとつの単語のように覚えてしまう。

〈方法2〉atは“点”のイメージで、列車の路線図などに記載された駅は“点”として感じるからatになる。

全体をひとつの単語のように受け取る

という〈方法1〉の根底にある姿勢は、今までにも考えてきた有効な姿勢です。(☞第24話・第34話)。

また、〈方法1〉は、

「で」「の」「に」「から」…

といった日本語を出発点、かつ、中心に据えるということです。

「駅で」の「で」はatでat the station、その流れで「駅の～」の「の」も、原則としてatを用いる、といったような整理の仕方です。

〈方法1〉と〈方法2〉。この両方の方法を織り交ぜながら、それぞれの長所を活かして、前置詞を身につけていく。これが、理想的な前置詞の習得法だと言えるでしょう。

inとat

前置詞の習得〈方法2〉にしたがって、混乱しやすい前置詞を比較してみましょう。

in：“枠”“囲い”をイメージする。つまり、
同じ平面にあり、隣の領域との境界線を感じる。
at：隣との境界線を持たない孤立した“点”。

新幹線開業当時、その名前が示すように、世界で一番速い列車『ひかり』号の停車駅は「東京」「名古屋」「京都」「新大阪」でした。今では、これより速い列車も登場し、停車駅もさまざまです。新幹線の駅のホームには電光掲示板などで停車駅が表示されます。そういったものを頭に浮かべるとよいでしょう。

表示される停車駅どうしは隣り合っておらず、孤立した“点”ととらえることができます。したがって、「この列車は名古屋に止まる」の「に」には前置詞atを用いて、

This train stops *at* Nagoya.

と考えていきます。

一方、同じ「名古屋に」でも、「昔、私は名古屋に住んでいました」の「に」には前置詞inを用います。

I used to live *in* Nagoya.

「名古屋」に隣接する市町村をイメージできます。“点”ではなく、“枠”“囲い”ですから、平面的な広がりも感じ、そこで日々の生活が営まれていたことをも想像させる場を作り出します。